



ステーブルコインの基礎

フィンテック養成勉強会



2025年6月作成

ステーブルコインとは？

ステーブルコインは、価格が安定するように設計されたデジタル通貨です。



価格の安定性

主に米ドルなどの法定通貨と連動し、価値が大きく変動しません。



実用性

価格が安定しているため、日常的な決済や送金に適しています。



国際性

国境を越えた取引や送金が素早く行え、手数料も安価です。

法定通貨

ステーブル
コイン

ブロック
チェーン

従来の暗号資産（ビットコイン等）との違い

従来の暗号資産とステーブルコインの最大の違いは**価格の安定性**にあります。



価格変動の大きさ

ビットコインなどの従来の暗号資産は、価格が短期間で大きく上下することがあります。投資としての側面が強いですが、日常的な利用には適していません。



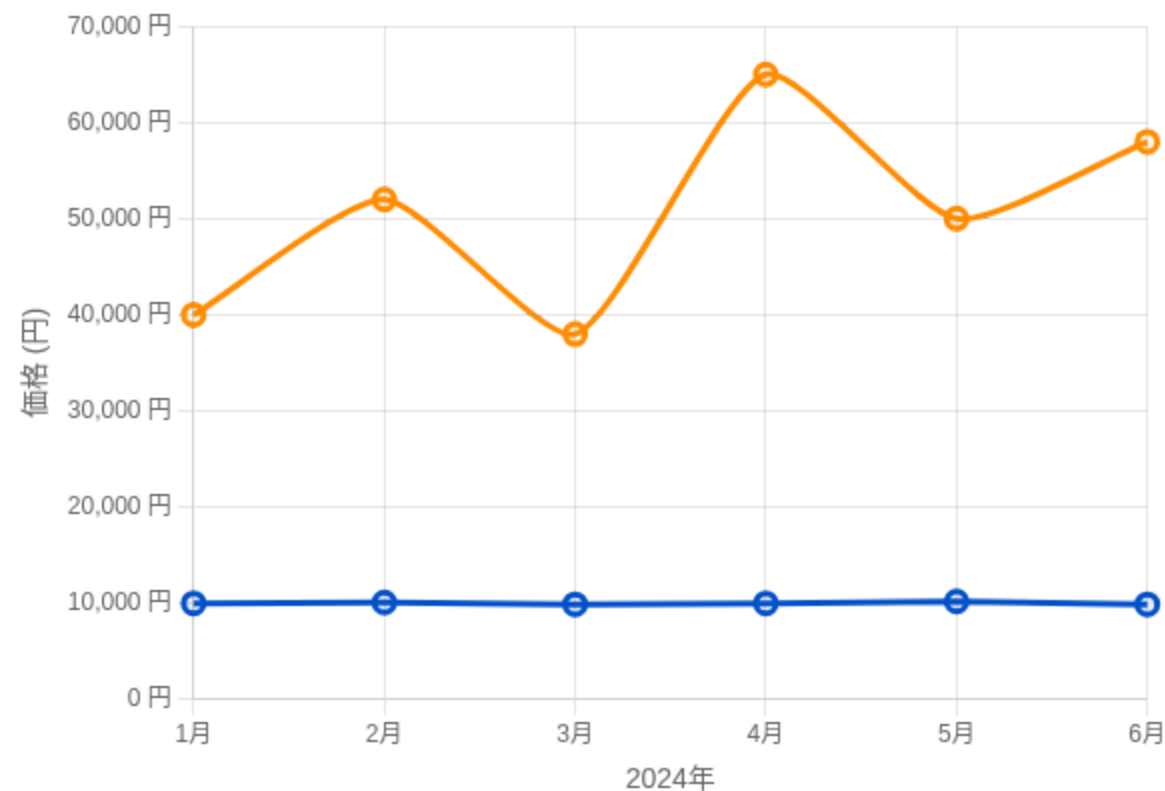
ステーブルコインの安定性

ステーブルコインは米ドルなどと連動し、価格が安定しています。1コイン≒1ドルのように価値が保たれるため、実際の決済に使いやすいという特徴があります。



実用性の違い

価格が安定しているステーブルコインは、日常の買い物や送金などの実用的な場面で利用でき、普段使いのお金に近い特性を持っています。



ビットコイン (BTC)



ステーブルコイン (USDT, USDC等)

ステーブルコインの種類と仕組み

ステーブルコインは主に3つの種類に分けられ、それぞれ異なる仕組みで価格を安定させています。



法定通貨担保型

米ドルなどの法定通貨を担保として保有し、1:1の価値を維持します。

例：USDT（テザー）、USDC（USDコイン）



暗号資産担保型

ビットコインなどの暗号資産を過剰担保として保有します。価格変動リスクに備え、担保率を高めに設定しています。

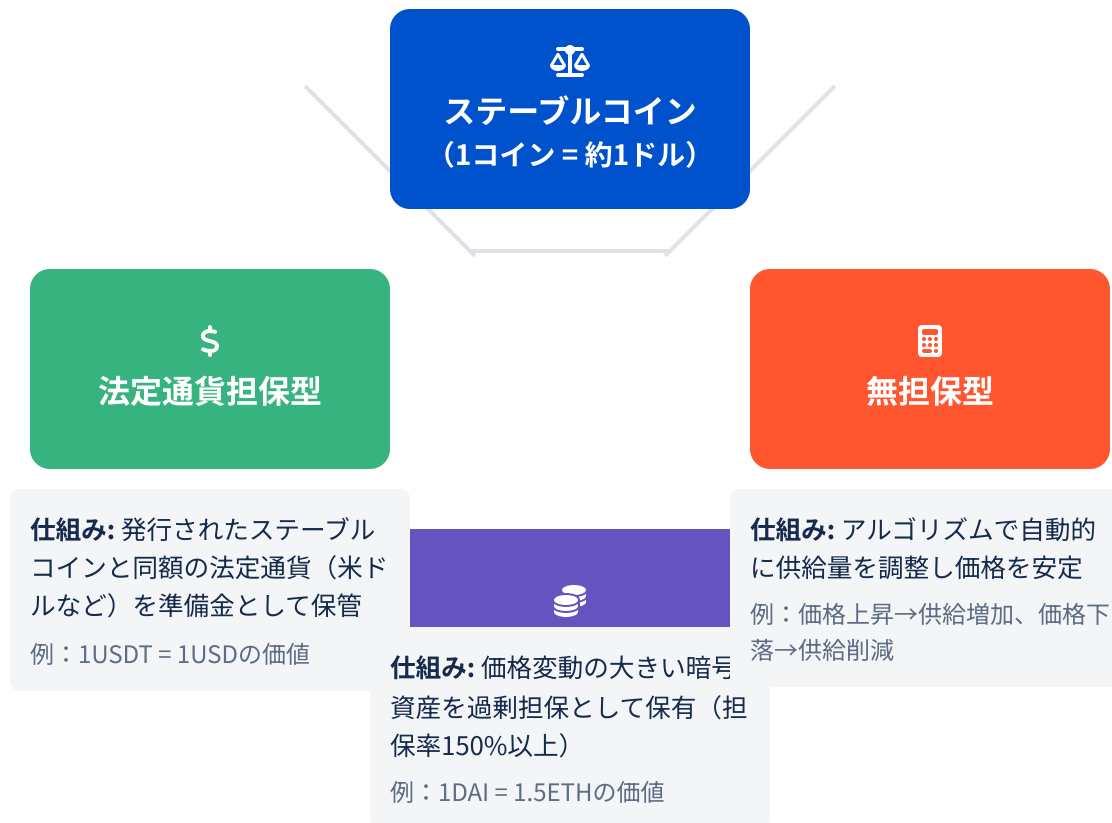
例：DAI（ダイ）



無担保型（アルゴリズム型）

アルゴリズムによって自動的に供給量を調整し、価格の安定を図ります。物理的な担保を必要としません。

例：旧Terra UST



主要なステーブルコインとサービス（2024年時点）

ステーブルコイン市場は少数の大手が大部分のシェアを占めています。それぞれ異なる特徴と用途があります。



USDT（テザー）

時価総額：約1,444億ドル（市場シェア約62%）
最も普及している中央集権型ステーブルコイン



USDC（USDコイン）

時価総額：約609億ドル（市場シェア約26%）
高い透明性と法令遵守で企業からの信頼が高い



DAI

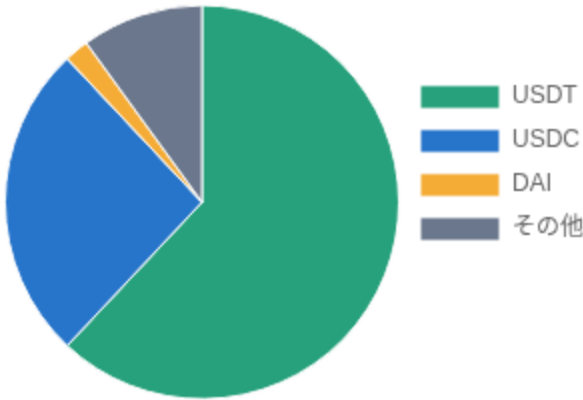
時価総額：約50億ドル（市場シェア約2%）
分散型で、スマートコントラクトによる自律的な運営



その他のステーブルコイン

時価総額：約230億ドル（市場シェア約10%）
BUSD、TUSD、JPYCなど様々な通貨に対応

ステーブルコイン市場シェア（%）



名称	種類	発行元	特徴
USDT	法定通貨担保型	Tether Ltd.	最大の流動性、多数の取引所で利用可能
USDC	法定通貨担保型	Circle社	透明性高く、日本でも「電子決済手段」として認可
DAI	暗号資産担保型	MakerDAO	分散型で中央管理者なし、複数の暗号資産で担保

※データは2024-2025年の公開情報に基づく推計値（2025年6月時点）

日本におけるステーブルコインの規制状況

日本では2023年6月に改正資金決済法が施行され、ステーブルコインに関する法整備が進みました。



法的位置づけ

ステーブルコインが「電子決済手段」として法的に認められました



発行主体

銀行、資金移動業者、信託会社のみがステーブルコインを発行可能



資産保全

発行額と同等の資産を保有する義務付け（価値の安定性確保）

法整備の経緯

2022年6月

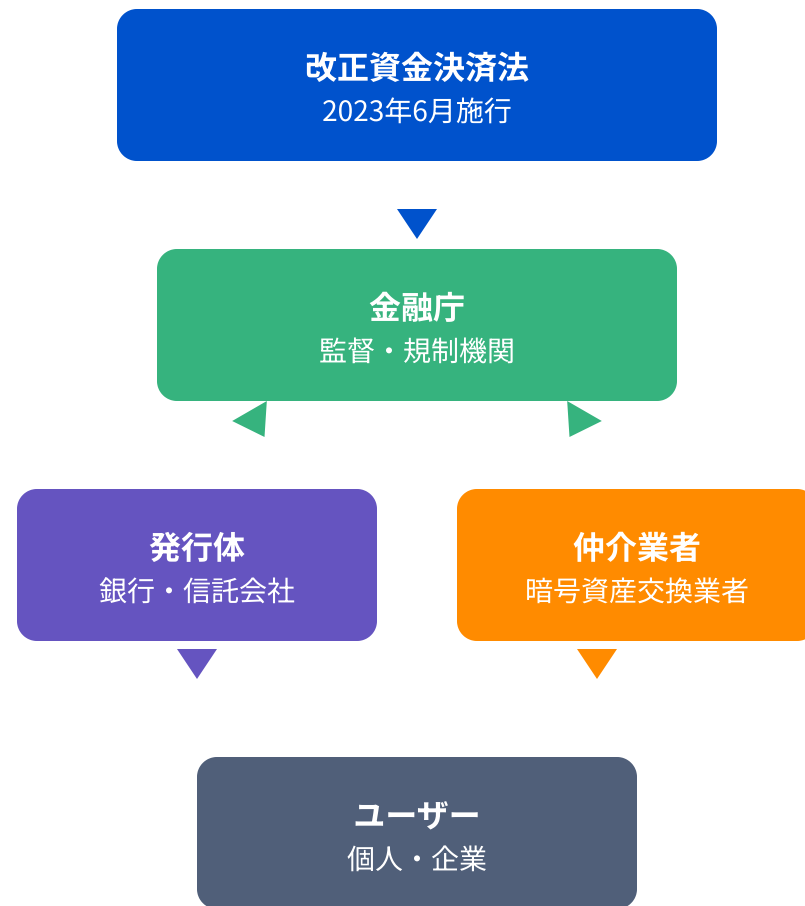
改正資金決済法が成立

2023年6月

改正資金決済法が施行開始

2024年以降

日本発行のステーブルコインの増加



ステーブルコインのメリットとリスク

ステーブルコインには様々なメリットがある一方で、リスクも存在します。

+ メリット

- 価格が安定しているため、日常的な決済に適している
- 国際送金が速く、手数料が安い
- 24時間365日いつでも取引可能

! リスク

- 発行元の信頼性や裏付け資産の実在性が重要
- 規制の変更により利用環境が変わる可能性
- 技術的な脆弱性によるセキュリティリスク

💡 ステーブルコインの活用には、そのメリットを最大化しつつ、リスクを適切に管理することが重要です。

メリット



価格安定性

法定通貨と連動した安定した価値



決済利便性

スムーズな取引と低コスト決済



国際送金効率

国境を越えた迅速な送金

リスク



発行元信頼性

準備資産の透明性に疑問



規制変更可能性

法規制の変更による影響



技術的リスク

ハッキングやシステム障害

ステーブルコインの基礎



ステーブルコインは価格安定のデジタル通貨

通常の暗号資産とは異なり、価格が安定しているため実用的な決済手段として使える



3つの主要な種類がある

法定通貨担保型（USDT、USDC）、暗号資産担保型（DAI）、無担保型（アルゴリズム型）



利用が広がっており、今後も注目

送金・決済の利便性向上、国際送金の効率化など、経済活動に新たな可能性



日本でも法整備が進展

2023年の改正資金決済法により、「電子決済手段」として法的に認められる